— 京都市ごみ減量推進会議 —

こごみ日和

～みんなでごみゼロ～

No.42 2009.12

少年時代—佐々木蔵之介さんのちょっぴりエコな生活 （続編）

今号でも佐々木蔵之介さんの子供時代について楽しく聞かせていただきます。

◆佐々木さんは子供の頃から自然とのおつきあいがあった訳ですね。

「ええ、今思い出しても、ものすごく季節感があったなあという記憶が頭から離れないですね。

10月になると杜氏さんが北近畿や北陸から酒造りに来てくださいます。酒の仕込みの冬の期間を一緒に生活するのです。早朝、まだ暗いうちに杜氏さんがボイラーをたいて米を蒸し始める、そこで家全体が揺れる。そこから、ああ、冬が始まるんだなあという感覚が深まっていくのです。」

◆今は、その季節感を味わう機会も少なくなりましたね。

四季のある日本だからこそ、季節を感じて生活することはとても大切な事だと思っています。その季節に、その地に生まれてきてくれたものにはやはり意味があると思うのす。例えば食べ物もそうです。それを大切にいただく気持ちを育てていくことが基本なのではと。」

◆そんな食卓だった?

「好き嫌いは絶対に許されませんでした。私は野菜、特にほうれん草が嫌いで、いつもいややいややと言っていました（笑）。でも結局は2人前食べさせられました。」

◆杜氏さんたちとも遊んだのですか?

「地元では漁業をしておられる杜氏さんもいらっしゃって、漁師さんというのはものを大切にするのです。私にもよくものを作ってくれました。机、物置き、注連縄、それを横で楽しく見せてもらった事が私の大切な思い出です。」

◆子供にとっては大切なことですよね。

「遊びと学びが同居していたというのでしょうか。遊んでいるようで、実はその中にしっかりと学びの種が溢れていたのかと。」

「そういえば、しろくま基地でよく遊びました。実家の精米所のことです。米俵がたくさん積んであり、クレーンやそれらの機械を操縦する操縦室みたいなものがありました。すぐ服が真白になるので僕がそう名付けました。兄弟3人の絶好の遊び場でした。」

◆最後に一言お願いします。

「私の家では仕事と遊びが共に同じ場所にありました。そこで誰に教わる訳でもなく学んでいったことがたくさんありました。今の子供たちは、そういう機会も少ないと思いますがホンモノを見る機会をつくってあげたいですね。」

—長時間、本当にありがとうございました。これからもご活躍を期待しております。—

「こちらこそ、ありがとうございました。」

取材:大橋正明

特　集

生ごみが地域を結ぶ
～「ご～みゃプロジェクト」京極・出町篇～

京都市ごみ減量推進会議
普及啓発実行委員長
KBS京都　ラジオ営業局
中田　富士男

出町商店街から出た生ごみをたい肥にし、それを使って地域の小学校、京極小学校でゴーヤのグリーンカーテンを作る。名付けて「ご～みゃプロジェクト」。「ごみ」から「ゴーヤ」を作るから「ご～みゃ」。ちなみに、この名前、KBS京都がラジオ番組でこの取組を紹介する際につけたものです。

ご存じのとおり、出町商店街は、レジ袋やトレイを辞退した方にスタンプを押す「エコスタンプ事業」など、当会議と「エコ商店街事業」に取り組んでいます。今回は4店舗にご協力いただき、生ごみを分別してもらったのですが、量としてはそう多くありません。しかし、子供たちが環境について学ぶ機会、また商店街でのごみ減量の取組が地域に浸透する機会になれば、非常に有意義であると考えました。

そこで工夫したのが、「エコ商店街事業」との連携です。6月のエコスタンプ事業の期間に、商店街でゴーヤの苗植イベントをしたのもその一つ。イベントには、門川京都市長も参加していただき、大いに盛り上がりました。また、京極小学校の児童が、授業で作った「エコ標語」も飾りつけました。

「エコエコと　言ってるわりには　できてない」

子供ながらに鋭い視点を感じさせる秀作の数々に、商店街の方たちからは感嘆の声。エコ商店街の取組に、ますます力を入れる刺激にもなったようです。ちなみにこのエコ標語、この後も商店街の「七夕夜店」や、秋のゴーヤ収穫イベント（10月12日）など、折にふれて商店街に飾られました。

また、4年生と6年生の総合学習として、環境教育にも力を入れました。これについては、事務局の方たちに随分と奮闘いただきましたが、ゴーヤの種まきから始めて、ごみのことやゴーヤの生育の学習、エコ標語作り、グリーンカーテンの効果測定、さらには調理実習など、「生ごみ」と「ゴーヤ」をフルに活用し、合計8回の授業を行いました。また、授業の様子やエコ商店街の取組を紹介する「きょうごくエコ通信」も4回発行。全児童の保護者にお渡しし、「いつも楽しみにしています」と好評を博しました。

苗植えイベント

グリーンカーテンの効果測定

さて、この取組が残したものは何か。「自分で育てたゴーヤ、少し苦かったけど、おいしかったです。」「私はこれからちょっとずつ食べ残しを減らしたいです。」「ゴーヤを育てることで、地球のためになっているなら、他のことでも地球のために何かできると思いました。これからは自分にできることを続けていきたいです。」子供たちの感想から、一回一回の授業で感じたこと、学んだことが伝わってきました。そして、商店街の出口理事長と私に、感謝の気持ちが書かれた手紙が届き、とても感激しました。この取組が地域に根差し、人と環境が調和したまちづくりにつながっていくことを願ってやみません。

ゴーヤを使った調理実習

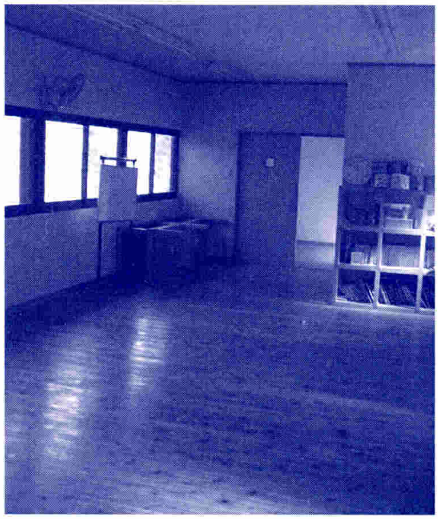
最後に、生ごみたい肥作りにご協力いただいた京都市環境事業協会の皆さんや、環境教育にご協力いただいたタキイ種苗株式会社、並びに株式会社堀場製作所の皆さん、出町商店街と京極小学校の皆さんに心から感謝申し上げます。

シリーズ

「みんなで考える」

＜木に包まれて、豊かな暮らしを＞

一級建築士事務所
企業組合もえぎ設計　田村　宏明さん



都市部をはじめ、今や都市郊外にも高層マンションが広がる日本の住宅事情においては、“木の家に住むこと”は、高価で、何か特別なことように思われがちです。

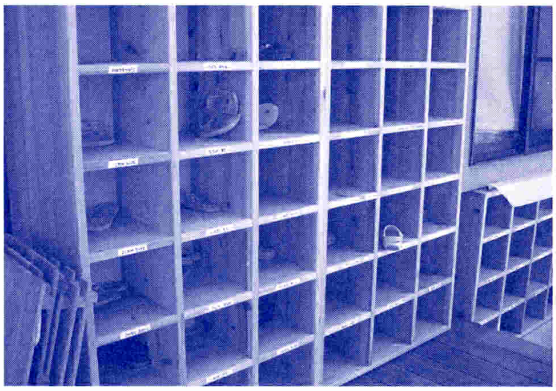
「木の家は気持ちが良いって聞くけれど･･･」「地元の木材を使うと高くなるでしょう?」そんな声が聞こえてくるようです。

今回は、京都の地元材を積極的に取り入れながら、家族みんなが満足する生活空間を提案し続ける、もえぎ設計の田村宏明さんにお話を伺いました。

田村さんが、京都･美山の森林組合からスギの板材を紹介されたのは、今から約15年前。価格も安く魅力的ではありましたが、節が目立ち、反りも気になって、本当に住宅に使えるのかどうか、半信半疑だったそうです。そこでまず、住宅の増築を依頼された施主と相談し、増築部分の一部にこの板材を使いました。

すると、施主の家族からもとても居心地が良いと大好評。木材は高価というイメージが強く、扱う機会が少なかっただけに、この板材との出会いは田村さんにとって衝撃であったといいます。増築を担当した大工さんの思い入れも強く、建築素材としての木材の可能性を改めて認識する結果となりました。

反面、木の生産者との交流を通じて、木が使われず山が荒れている現状を目の当たりにすることになります。そこで「京都森と住まい百年の会」を林業家や行政の方など幅広い人達と立ち上げ、木を暮らしに生かすことで山を守る活動を始めました。真剣に林業に取り組んでいる人々の木を扱いたい、そして少しでも彼らの力になりたいと、林業と消費者を結ぶ役割を担うようになります。また、木材の生産地偽装防止や輸送時の環境負荷を軽減するためにも、木材の認証制度が必要であると考え、京都府地球温暖化防止活動推進センターが運営する「ウッドマイレージCO_2認証制度」の普及にも力を入れています。



児童館のグラウンドには、
井戸水を汲み上げるポンプがあります

児童館の2階も木に包まれた空間です。

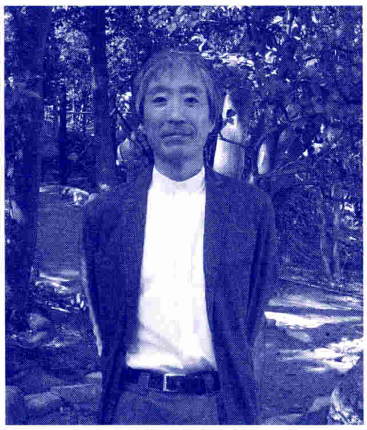
2005年にオープンしたNPO法人フォーラムひこばえの中を見学させて頂きました。
もえぎ設計のすぐ裏手に位置し、改装は同社が担当。スギの板材をふんだんに使い、赤ちゃんからお年寄りまで、ゆったりすごせる空間に仕上がりました。

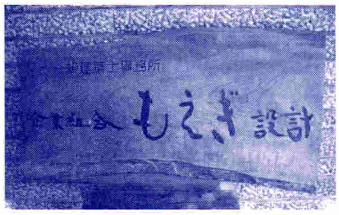
シリーズ
「みんなで考える」

もう一つの課題は、京都府の場合は府下に大きな製材所がないため、京都府の山で伐採された木を加工するには、近隣の府県を経由して、再び京都に戻って来るケースも多いということです。木材の製材・加工のためには近隣の製材所との連携が欠かせません。同時に、生産者から消費者まで顔の見える関係を大切にしたネットワークをつくり、地域に根づかせる事が求められています。認証制度の広がりとともに、流通経路の透明性が高まることで、余計な環境負荷やコストをかけない地元材の流通経路の確立が期待されています。

“木の家に住みたい”—そんな家族の生活スタイルを叶えることは建築家が最も得意とするところです。住まいとは、家族の暮らしを豊かにするための大切な要素。その一つの素材として、木材は大きな存在感を持っています。古くから、日本の建築は木と土とを巧みに組み合わせ、自然に逆らわずに長持ちさせる技術を確立してきました。地元材の用途を模索する中で、これまで培ってきた技術を活かし、木とともに呼吸ができる家づくりが、いま見直されています。

取材日:平成21年10月28日
取材:松村　香代子


田村　宏明さん



企業組合もえぎ設計

〒616-8208京都市右京区宇多野福王子町54
TEL 075-463-1120
FAX 075-463-2733
H P http://moegi.weblogs.jp/blog/

取材を終えて

森林は私たちにたくさんの資源をもたらしてくれます。
ここに述べられた住まいの材料を始め、食料や水を、あるいは木質チップなどによるバイオエネルギーを提供してくれるのも森林です。
また、レクリエーションの場として私たち人間の心身の健康に寄与してくれています。
勿論、多くの生き物の棲家であることは言うまでもありません。

森が行っている気候調節機能は、私たちの暮らす地域に特有の環境を与えてくれており、その意味で、目の前に森が見えていなくてもひとつの地域として見たときに、私たちは確かに森と共生し、里山保全を媒介にしながら互いに循環しあう関係にある訳です。
森林は都市の塵や埃を吸い取ってくれるフィルターの役割も果たしてくれているのですが、この森とのおつきあいについてまだ関心が低いと言わざるを得ません。

私たちが循環型社会を唱えるのであれば、よく森林を守り、育て、学び、そこに働く人々のことも理解しながら、森林から持続可能なかたちで資源を得、それらの資源を永く無駄なく使い、また美しい森の生態を守り続ける文化を私たちはこの21世紀にこそ育まなければなりません。
例えば、ここで取り上げた森と住まいのよい関係をつくることもとても大切なことです。
それらが町に広がれば更に望ましいことです。
森と人間は同じ環境に暮らしているとも言いました。そこには同じ風土に暮らす者同士が持つ健康で理にかなった知恵というものが包括されているのです。

資源エネルギーを使い果たす巨大産業システムによる文明が終わろうとしている訳ですから、私たちは生命に重きを置く新しい文明のヴィジョンを創造し、そしておのおのの地域固有の環境に根ざした生活文化を再生することが、今、求められているのです。

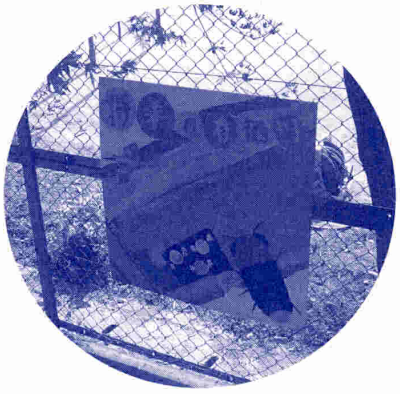
文　大橋　正明

京のこの人にインタビュー

北梅津地域ごみ減量推進会議
会長 **中谷　明照さん**

毎朝ネクタイをピシッと締め、トレードマークの黄色い帽子をかぶると、梅津北小学校の元気な子どもたちを笑顔で出迎えます。中谷会長の朝は、小学生の登校時の“見守り隊”から始まります。

北梅津地域は、南北に有栖川が流れ、梅宮（うめのみや）大社に守られた、自然と人々の暮らしが寄り添う、歴史の古い地域です。しかし、今から30年程前の有栖川は河川へのごみの不法投棄などで汚れており、中谷会長は汚濁の進む川を何とかきれいにしたいと地域へ呼びかけ、河川美化啓発活動を続けてこられました。

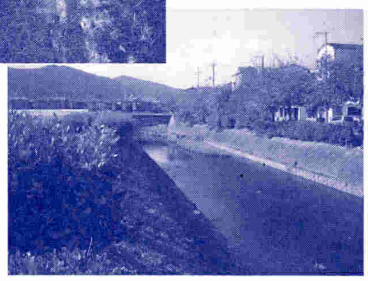


そして平成8年、流域の6学区（嵯峨、広沢、嵐山、嵯峨野、北梅津、梅津）と行政が連携し、「有栖川を考える会」が発足しました。

地域住民や学校が河川環境や多自然型川づくりを考え、行動する基盤ができたのです。その翌年からは、自治会連合会や地域の各種団体、小学生も参加しての河川のごみ拾いや水中生物の調査などが始まり、身近な自然を守る活動を続けています。

中谷会長は、小学校高学年を対象とした環境学習や、各種団体への講演会を行っており、その資料づくりにも随所にこだわりが見られます。まず、与えられたテーマをご自身の納得がいくまで調べて、写真資料などで分かりやすく解説し、更にストーリを練って、最後にはそのテーマにぴったりの歌を選曲して完成。まるでお芝居を見ているように、話がどんどん進みます。“蛍が住める川の条件は？”“有栖川にはどんな魚がいるのかな？”などと子どもたちに問いかけ、子どもたち自らがグループで調べて発表を行います。身近な自然を学習の場として活用することで、子どもたちの感受性を伸ばすこともできます。今では、小学1年生からごみの分別やリサイクルについても取り組んでおり、小さい頃から環境に関心を持つことの重要性が、教育の現場で活かされています。

水辺は、水鳥たちの憩いの場です



美しい秋の風景が広がります

中谷明照会長と幸子夫人
梅津北小学校と有栖川をつなぐ“ありすの小径”にて

もう一つ、中谷会長の多才ぶりを示すのが『有栖川音頭』です。長年の構想期間を経て、昨年7月にお目見えしました。嵯峨や嵐山といった名所の風情を織り込みながら、有栖川の情景を伸びやかに歌ったこの作品は、地域の敬老会や音楽祭などで、オリジナルの舞踊とともに大人気。有栖川を通して繋がる人の輪が、また一つの宝物です。

「有栖川がある限り、このええ川を守っていくで！」中谷会長の真っ直ぐな情熱が、これからも北梅津地域の魅力として輝き続けます。

取材日:平成21年10月27日　　取材:松村　香代子

梅津北小学校の児童が書いた啓発ポスター
（梅津北小学校のフェンス）

北梅津地域ごみ減量推進会議

◆発足：平成20年4月
◆使用済み天ぷら油回収日：毎月第2土曜日
（午前10時～11時30分）

毎月3箇所で天ぷら油の回収を行っており、回収日の案内ポスターを市広報板に掲示し、地域住民にお知らせしています。その効果もあり、今年度は前年度を上回る回収量になる見込みです！

事務局からのお知らせ

3Rリーダーデビュープログラム　拡大教養講座のご案内

仕事を楽しくする方法『上田信行さんのプレイフルワークショップ』

同志社女子大学　現代社会学部現代こども学科教授　上田信行さんを講師にお招きし、“仕事を楽しくする方法”“チームで分かち合う大切さ”“目標をつくることの意義”など、新鮮なワークショップとお話で展開します。

3R活動の一環として、エコをテーマにワークショップ体験も行います。

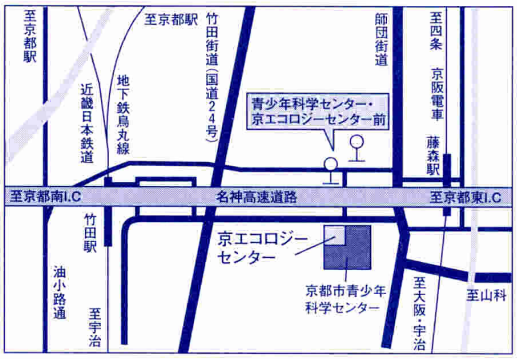
日　　時　平成22年1月26日（火）　13:00～16:00

場　　所　京エコロジーセンター　3階　第1会議室・第2会議室
（〒612-0031京都市伏見区深草池ノ内町13）
※右記の地図をご参照下さい

参 加 費　無料
※お申込み多数の場合は先着順となりますので、ご了承ください
※お申し込みは各団体2名様までお願いします

申込方法　FAXまたは郵送にて、
①講座タイトル　②所属名　③参加希望者のお名前　④ご住所
⑤お電話番号　⑥FAX番号　を明記の上お申し込み下さい

申 込 先　〒612-0031京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
京都市ごみ減量推進会議事務局　（担当　江川、山田）
Tel.075-647-3444　Fax.075-641-2971



●京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩5分
●地下鉄・近鉄「竹田駅」下車東へ徒歩13分
●南5・南8・臨南5「青少年科学センター・京エコロジーセンター前」下車南へ100m
●駐車場はございませんので、徒歩、自転車、公共交通機関でお越しください

NEWS

平成21年

★11月の出来事

- ■ 1日（日）　まち美化市民総行動　啓発ブース出展
- ■ 4日（水）　3Rリーダーデビュープログラム
  プレゼンテーション見本市
  地域ごみ減量推進会議　伏見区ミーティング
- ■ 6日（金）　買い物でエコキャンペーン啓発イベント
  （ジャスコ京都五条店）
- ■ 7日（土）　3R検定受験対策講習会
- ■ 9日（月）　買い物でエコキャンペーン啓発イベント
  （アルプラザ醍醐）
- ■ 13日（金）ごみから見つめる「京都の未来フォーラム」
- ■ 14日（土）西京区民ふれあいまつり　啓発ブース出展
- ■ 15日（日）レジ袋有料化シンポジウム
- ■ 18日（水）3Rリーダーデビュープログラム拡大教養講座
  「一澤信三郎帆布工場見学と座談会」
  ごみ減量事業化実行委員会
- ■ 21日（土）・22日（日）　京都府環境フェスティバル
  啓発ブース出展
- ■ 22日（日）下京区ふれ愛ひろば　啓発ブース出展
  市役所前フリーマ開催
- ■ 23日（月・祝）　伏見西部ふれあいプラザ　啓発ブース出展
  ふれあい山科区民まつり　啓発ブース出展
- ■ 24日（火）2R型エコタウン構築事業実行委員会
- ■ 25日（水）「地球にやさしい暮らし方を学ぼう」キャンペーン
  （カナート洛北店）
- ■ 26日（木）地域ごみ減量推進会議　下京区ミーティング
- ■ 27日（金）普及啓発実行委員会

★12月の出来事

- ■ 1日（火）　地域ごみ減量推進会議　施設見学会
- ■ 2日（水）　3Rリーダーデビュープログラム　ふりかえりワーク
- ■ 6日（日）　市役所前フリーマ開催
  ～小型家電回収キャンペーン開催～
- ■ 8日（火）　3Rリーダーデビュープログラム拡大教養講座
  「町家暮らしは3R」
- ■ 11日（金）　地域ごみ減量推進会議　西京区ミーティング

★2010年1月の予定

- ■ 13日（水）　理事会
- ■ 26日（火）　3Rリーダーデビュープログラム拡大教養講座
  「上田信行さんのプレイフルワークショップ」
- ■ 31日（日）　市役所前フリーマ開催

★2月の予定

- ■ 14日（日）　市役所前フリーマ開催
- ■ 買い物袋持参キャンペーン　（アルプラザ醍醐）

京都市ごみ減量推進会議会報誌　ごみを減らそう！ No.42

〒612-0031　京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL：075-647-3444／FAX：075-641-2971
E-mail：gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL：http//web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

ゴミゲン・ネット　検索　で検索出来ます

【入会のご案内】
京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民団体、事業者、行政により１９９６年１１月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動をする会員を募っています。
詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL：075-647-3444

企画編集：京都市ごみ減量推進会議　普及啓発実行委員会
（会報誌・ホームページ小委員会）

古紙を含む再生紙に大豆インクで印刷しています。　PRINTED WITH SOY INK